

パスロジ(4426)

2019/6 通期は前期比 91.1%の増益、2020/6 期は減益計画だが PassLogic の順調な伸びを見込む

TOKYO PRO Market | インフラ・ソフトウェア | 業績フォロー

BLOOMBERG 4426:JP | REUTERS 4426.T

- 2019/6通期は、売上高が前期比28.2%増の3.00億円、営業利益が同2.1倍の9,925万円、当期利益が同91.1%増の5,961万円だった。
- 2020/6通期会社計画は、売上高が前期比4.5%増の3.14億円、営業利益は同48.1%減の5,100万円、当期利益は同45.8%減の3,200万円。PassClipのプロモーション費用や事務所移転費用により減益の計画。
- 主力商品PassLogicでは、既存顧客の保守サポート・年間ライセンスによる売上の順調な伸びを見込むほか、新規のパッケージ販売でも有力なセキュリティベンダーやパートナーとの連携を強化する方針。

What is the news?

2019/6通期は、売上高が前期比28.2%増の3.00億円、営業利益が同2.1倍の9,925万円、経常利益が同74.9%増の8,900万円、当期利益が同91.1%増の5,961万円。5/20に上方修正した通期会社計画では、売上高を3.01億円、営業利益を9,700万円、経常利益を8,600万円、当期利益を5,400万円と見込んでいた。セキュリティ業界では、情報漏えい事件・デジタル系通貨詐欺事件の多発による問題意識の向上や国家間サイバー攻撃への事前対策、2020年に向けたスマートビズ環境整備などを背景に高い需要が続いている。主力製品PassLogicでは、新規案件の受注があったほか既存顧客による契約更新も順調に伸びた。販売費及び一般管理費は同7.5%増の1.45億円。裁判関連費用は減少したものの、特許関連費用・ISMS取得関連費用が増加した。ただ、売上高の伸びに比べ小幅に留まった。

同社は新規技術（特許技術）の開発に力を入れている点に特長があり、2019/1-6期には4件（うち日本国特許は1件）を取得。特許の取得件数は累計で83件（うち日本国特許は28件）となった。2019/6通期の主な相手先別の販売実績は、ネットワークが前期比15.7%増の5,895万円、データアイエスソリューションが同1.5%減の4,471万円、日鉄ソリューションズが同4.6倍の4,140万円、ソフトバンクが同48.1%増の3,376万円。

How do we view this?

2020/6通期会社計画は、売上高が前期比4.5%増の3.14億円、営業利益が同48.1%減の5,100万円、経常利益が同45.9%減の4,800万円、当期利益が同45.8%減の3,200万円。同社は主力商品PassLogicの販売に注力していく意向だ。既存顧客の保守サポート・年間ライセンスによる売上の順調な伸びを見込むほか、新規のパッケージ販売についても有力なセキュリティベンダーやパートナーとの連携を強化する。BtoBtoC分野向けのビジネス「PassClip」についても、新たなセキュリティリスクや社会課題に対してソリューションを提供できるよう準備を進めていく。PassClipについて提携サイトとのタイアップのためのプロモーション費用や事務所移転費用（営業外費用）などを想定するため、減益の計画となっている。

業績推移

事業年度	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6F
売上高(千円)	200,794	234,662	300,833	314,000
経常利益(千円)	28,588	50,884	89,004	48,000
当期利益(千円)	22,824	31,194	59,612	32,000
EPS(円)	22.82	31.20	59.63	32.30
PER(倍)	21.91	16.03	8.39	15.48
BPS(円)	162.81	184.61	230.33	-
PBR(倍)	3.07	2.71	2.17	-
配当(円)	10	15	25	-
配当利回り(%)	2.00	3.00	5.00	-

(※)2018/9/29付で普通株式1株につき100株の株式分割を行ったが、2017/6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、EPS、BPS、1株あたり配当金を算定している
(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

フィリップ証券株式会社

配当予想 (円) - (会社予想)
 株価(円) 500 2019/10/29(基準値)

会社概要

2000年にワンタイムパスワードの新技术「パスロジック方式」のライセンス供与・管理を目的に設立。本人認証技術の中核とした認証セキュリティソフトウェアの開発、販売を主体とするソフトウェア事業を行っている。パスロジック方式は、小川秀治代表取締役社長が1997年に考案した「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システムであり、同システムは2000年に米国特許を取得。数字が記されたマス目状の表(乱数表)から、「マスの位置」と「順番」(シークレットパターン)に沿って、文字を抜き出してパスワードを判読する方式であり、マスの位置を覚えるだけで誰でも簡単に使い始めることができる。パスロジック方式を製品化した企業・団体向け認証セキュリティソフトウェア「PassLogic」は、ログインのたびに乱数表に記された数字がすべて刷新されるため、シークレットパターン通りに数字を抜き出せばパスワードが毎回新しいものになる仕組みとなっている。

2004年にパスロジック方式を活用した認証サーバーソフトウェア製品「PassLogic-AS」の販売を開始。2006年には従来の技術ライセンス供与を中心とする方針を変更し、自社ソフトウェア開発メーカーとして本格的に事業展開することを決定。2007年末には複数の特許技術を活用し、パスロジック方式を2経路で認証することでセキュリティを強化した「PassLogic」の販売を開始した。2014年には大規模ユーザーにも対応可能にした後継製品「PassLogic エンタープライズ版」の販売を開始。2019/6時点、パスロジック方式利用製品の発行ライセンス数は累計117万件に上り、同社の主力製品となっている。2018/12/19にTOKYO PRO Marketへの上場を果たした。

企業データ



主要株主(2019/9/27)

株主	(%)
1.小川 秀治	66.10
2.小川 美樹子	10.00
3.小川 遥香	9.00
4.小川 穂波	9.00
5.石井 裕一郎	2.15

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則(平14.1.25)」に基づく告知事項>

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当J-Adviserに就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っております。